

ふるさと活動モデルづくり事業

【目的】

- 学校や学年、世代を超えたつながりとネットワークをつくり、高校卒業後も地域とつながり続けることができる仕組みや、地域住民が継続して子どもたちを支援できる体制をもったモデルをつくることで人の環流につなげる。
- 「ふるさと活動」を通して、地域住民が地域への愛着や誇り、貢献意欲の向上を図るとともに、学びと実践の好循環をつくる。

「ふるさと活動」

- 主体的に行う活動
- 地域資源（ひと・もの・こと）を生かした活動
- 地域住民とのつながりがある活動
- 地域に貢献しようとする活動

「子どものふるさと活動」

- ・子ども達が主体となって行う



「大学生・若者のふるさと活動」

- ・発展型、実践例を見せる
- ・地元の活動拠点とする
- ・地域課題解決の場とする

保護者・地域人材等によるサポート

- ・地域全体で子どもを育てる意識の醸成
- ・活動を通じた地域資源、価値の再発見
- ・地域の未来への希望

活動（取組）例

- ①地域貢献・ボランティア活動
- ②研修（研修会、先進地視察等）
- ③自主企画イベント
 - ・学びの発表会の開催
 - ・公民館の文化祭への出店
 - ・地域おこしのアイデア実践
 - ・魅力あるスポットの調査
 - ・地域製品の活用
 - ・広報活動

モデルイメージ

- ・子ども主体の取組
- ・「ふるさと教育」の実践の場
- ・地域住民が様々な形で関わる
- ・「大学生・若者のふるさと活動」への発展
- ・持続の可能性が見込まれる

持続可能な体制づくり

- ・大人のサポート体制の充実
- ・多様な手法による資金調達の計画（自主財源の創出の工夫）
- ・子どもが高校卒業後も関わり続けられる体制
- ・中長期的な展望をもった計画



人材配置

- ・上のモデルイメージ実現に向けた事業推進や関係者等への支援を行う人材を配置をする

活動支援の例

- ・活動の開催日や場所、内容等を調整する
- ・子どものアイデアを実現するために諸所（学校・企業・公民館等）と調整する



※県は、市町村の行う人材配置に対する支援措置を行う



活動と学びの循環、人の環流
モデルイメージ（P18参照）